

ガバナー月信

GOVERNOR'S
MONTHLY LETTER 2006→2007

NO.12



ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760

2007年
6月1日発行

6月は、ロータリー親睦活動月間です。



6月

ガバナーメッセージ	2
ロータリー親睦活動月間によせて	4
@2760だより (パストガバナーからのメッセージ)	5
2007～2008年度地区協議会	6
ローターアクト 交流事業について	16
ローターアクト地区年次大会	16
ガバナーからの報告・お知らせ	17
会員数 及び 出席報告	19

「竹 林」

国際ロータリー 第2760地区
ガバナー 斎藤 直美

〒470-0373 豊田市四郷町東畑125 さなげメディカルビル内
TEL.0565-44-2760 FAX.0565-44-2761
E-mail governor06-07@rotary2760.org
Governor's HP <http://2760.jp>

Governor Message

ガバナー メッセージ

クラブ会長各位
クラブ幹事各位

梅雨入り間近なのに、この快晴はどうしたのでしょうか。心地よい天気が続きます。会長幹事さんにおかれましては、最終例会の準備はお済みでしょうか？それどころではない？そうですか！最終例会まできちんとおやり下さい。それでこそ会長さんです。

クラブ会長さんの方針は、『Lead the Way（率先しよう）』で大成功だったこととお喜び申し上げます。それもこれも幹事さんの陰ながらの支えがあったからこそと推察いたしますが、いかがでしょう。

ところで、1年間本当に有難うございました。公式訪問、地区大会、そしてIMで多大のご協力をいただき、成功裏に幕を閉じることができます。心より御礼申し上げます。

私は一年間、「ロータリーに対する思い入れ」だけで夢中で過ごしてきました。理論武装しながら、向上心に燃えしゃにむに突き進んできました。自信に満ちあふれていました。が…公式訪問も半ばを過ぎ、地区各種委員長会議を一つ一つ消化するにつれて、次第に自信に揺ぎが出始めました。WCSのラオス旅行2回、GSEでのリトルロックへの応援、第2回、第3回の各種委員長会議の開催と出席は、この揺ぎをますます大きくさせてくれました。

ロータリーは職業奉仕が中心にあるはずなのに、それを忘れたかのようなプログラムの横行は、“これぞロータリーの運動”とばかりに目立ちます。疑問が湧きます。しかしながら、このプログラムへの参加は自分で提唱した地区方針の一つ「ロータリーを学ぼう」なのではないかと気づきました。おごりのあった自分に気づきました。限りなく謙虚への努力、自己研鑽への努力がロータリー運動ではないのか。人助けというボランティア活動への参加は、自分の人生の「学び」の一つではないのか？人助けなんてうぬぼれるな、と。

GSEの応援に4月19日～26日、アーカンソー州6170地区へ行って、地区大会でスピーチしました。ブローケンイングリッシュと日本語とのMIXで…「ロータリー運動の中心は次世代を育てることです。RIプログラムは人道支援に横ぶれしてきて正しくない」とスピーチしました。

4月28日、29日、2830地区（青森）のローターアクトとの交流会打合せに参加し、5月13日 当地区のローターアクト第17回年次大会に参加しました。満30歳で卒業する10人の卒業式は感激の極



ガバナー 斎藤直美

みで涙しました。私ももらい泣きました。ローターアクトに参加し自分が成長できた喜びの感謝のスピーチばかりでした。その他に私はインターアクト大会、ライラセミナー、米山学友会、ロータリー奨学生、青少年交換などのプログラムに参加しましたが、未来をみつめる青年の目と姿は、明るく活気に満ち、私達ロータリアンに自信を与えてくれます。

ロータリー運動の基準値の線は、クラブ奉仕、職業奉仕、そして新世代育成奉仕で線引きすべきでしょう。そこから先の社会奉仕や人道支援プログラムは余力のある人や、ロータリアン教育プログラムとして参加すべきであり、そこに目的を置くべきではないと考えます。ロータリアンのロータリー嫌いの原因は、この社会奉仕や人道支援プログラムに参加するメンバーがヒーロー扱いされ、そのプログラム達成のための寄附集めに得心いかないのが大きな要因と考えます。私の心は右に左に揺れ、ロータリー運動の何たるかを求め、地区内のロータリー活動の実践症例を目で確かめ肌で感じるも何ら結論が出ないのでありました。しかしこの1年を終わるにあたり、私のロータリー運動のこの線引き作業に結論が出たような気がします。ロータリー運動は、平均値として新世代育成奉仕までを義務的なプログラムとして扱い、人道支援は自主的プログラムとして扱うとすれば、息が楽になり、ロータリアンの寄附への自縄が解けます。自縄が解ければ“じゃあ俺も参加してみるか！”とポリオ投与へWCSへ参加するメンバーが増えてくると確信します。

人道支援プログラムはおろか新世代育成プログラムにさえ参加しないメンバーは、きっとある種のうしろめたさがあるはずです。しかし、それで良いのだという確信を持つべきです。佐藤千壽先生の「ロータリー素数論」であります。人それぞれのロータリー論があるはずです。そしてそれを認め合うべきです。言い争いをすれば相手の言い分がはっきりしてお互いに歩み寄りの作業が自然に行なわれて、ファジーながらもそのロータリー論が確認できるのです。

7月から新しい年度が始まります。また考え直し言い争いしながら1年を過ごしましょう。ロータリーって楽しいじゃないですか！最終例会で会長さんがクラブ史上に残るすばらしいスピーチをされることを切に希望してやみません。そして次なる年度は地区委員として活躍されることを期待申し上げます。

ロータリー親睦活動月間によせて

ロータリーの友

編集長 二神 典子



『ロータリーの世界を広げる』

6月はロータリー親睦活動月間です。ロータリーでは親睦をととても大切にしていますから、皆さまのクラブでも、親睦例会、親睦旅行、同好会……など、いろいろと工夫をされていると思います。各クラブで、会員同士が親睦を深めるということは、とても大事なことの一つに違いないのですが、6月に特別月間として定められている「ロータリー親睦活動」は、そういった活動ではなく、国際ロータリー（RI）のプログラムの一つである「ロータリー親睦活動」のことを指していて、この活動については『ロータリー章典』に記載があります。

幸いなことに『ロータリー章典』の日本語訳ができ、RIのホームページに掲載されていますが（ロータリージャパン www.rotary.or.jp から入ることができます）、この記載によれば、「ロータリー親睦活動は、職業的またはレクリエーションの活動を遂行するために結束したロータリアンのグループである」とあり、その目的は「共通の関心を持つ人が友情や親睦を深めることである」となっています。このほかにも、親睦活動グループについて書かれていますので、一度ご覧になってください。

難しい規則は『ロータリー章典』に譲るとして、私の体験を少しご紹介します。毎年、国際大会が開催されていますが、友愛の家にはたくさんのブースがあり、それらの中に、親睦活動グループのブースもたくさんあります。私は、ホームページに掲載する写真を撮るために、これらのブースを訪れますが、いずれのブースでもメンバーの方たちが楽しそうに、自分たちの活動について紹介してくださいます。

国際大会は、世界中に散らばっているメンバーが一堂に会する絶好の機会です。普段はメールでやりとりをしたり、近隣の仲間同士で活動をしたりしている人たちが、これらのブースで自分たちの活動を紹介しながら、お互いにより親しくなっていくのだと思います。そして、自分のクラブや地区の範囲でしか知らなかったロータリーを、違った視点で、さらに広く知ったり、体験したりすることができるのも、ロータリー親睦活動のいいところだと思います。

ロータリー親睦活動について、どのようなグループがあるのかはRIのホームページで見ることができますし、国際大会のブースでも知ることができます。参加してみたいグループが見つければ、もちろん個人で参加することもできますが、もし、皆さまのクラブの同好会と同じような活動をしているグループがあれば、それらのメンバーとともに参加するのはいかがでしょうか。皆さまのクラブの活動が世界中のロータリアンと結びつくことになると思います。

@2760だより

ロータリー多事争論

パストガバナーからのメッセージ

「ロータリーにおけるサービスの理念」

パストガバナー 加納 泉



日本は江戸時代の鎖国でもって文明が遅れ、明治の初めになって欧米のアングロサクソンが作った社会体制を観察し、真似をして、追いつけ、追い越せ、という姿勢で明治以来やって来ました。

欧米における社会的価値というのは、個人が絶対的な価値を持っていて、その個人が自由に競争することによって進歩と幸せが実現出来るという考えです。だから欧米の教育は全部知能教育だったのです。人間としての教育はすべて教会が担当していたのです。

それをまるっきり真似したから日本の教育は全部知能教育になってしまったのです。だから日本人は知識的には優れていますし、技術能力も先鋭なものをもっています。お陰で世界で立派な成績をおさめ、今日、外面だけは、快適な社会生活を実現出来たのです。

しかし主人公は人間です。肝心の人間をどうするかという点はあまり気を使いませんでした。勿ち教育の対象から外れていたわけです。その結果どういうことになったかと言うと、個人は絶対だとの考えを都合よく誤解して、人様よりも自分だけいいことしよう、人を押しのけてでも自分の利益をとおす、という人間が増えて来ました。

人を踏みつけてもいいから、競争して先に行こうとする社会です。これを総括して言えば、我々がお手本にしてきた欧米教育、欧米社会の切磋琢磨の競争の長所と、弱肉強食、貧富の格差の短所を浮き彫りにする時代となりました。これは明治以来、人間を教育するという視点が希薄であったことの結果だと思えます。

地球は大きく広く余地や、空白地帯が澤山あった時代には、少しぐらい悪いことがあっても何とか我慢できたのです。しかし、今はもう数秒で世界中に情報がゆき、世界の隅々まで、我々の息がかかっていますから、逃げ場がなくなっているわけです。ですから、被害が絶大なことになって来ています。

物質的にみて、人間が好きなことをやるには地球環境にもうあまり余力が無いのではないのでしょうか。人間の精神というの、相当ゆとりがないと健全には過ごせないのです。今その健全さの限界まで来ているのではないのでしょうか。個人の絶対とか、競争の自由というものばかりで、肝心の人間を忘れていたことが問題です。

人間を教育すると言うことは、どういうことか考えてみますと人間というのは、人様のおかげで生きている。もっと根本的には、自然のおかげで生きているということをもう一遍見つめ直して、初心からやり直ささいということでしょう。

職業における自由競争・利益追求が主役となってロータリーの職業奉仕でいうサービス、

- 人様のことを考えて
- 人様に尽くしなさい

は傍役に廻った感さえありました。ロータリーとは、人間の根本的な心理を基礎に置いている団体と言うべきであります。人間性を軽視する社会が幸福である筈はありません。如何なる組織も巨大化を追い求めれば人間性が失われますし、来るべき時代の企業に於ける資本とは金ではなくて人であるといわれます。

佐藤千寿氏がロータリーとは生活の姿勢を正す仕事ではないでしょうかと申しています。ロータリー活動が興味深く、喜びであり、人間としての成長に満足感が味わえるものでありたいと願っております。

2007～2008年度のための地区協議会報告

本 会 議

報告者 次期地区副幹事
船橋 茂行

R I 第2760地区2007～2008年度のための地区協議会が、豊田東 RC のホストにより 5 月 6 日(日)ウェスティンナゴヤキャッスルにて行われました。

総括リーダー斎藤直美ガバナー・サブリーダー江崎柳節ガバナーエレクトの指導の下、RI 次期ウィルキンソン会長の提唱する Rotary Shares（ロータリーは分かちあいの心）と、江崎ガバナーエレクトの提唱する地区運営方針“One Difference”（違いをもたらそう）のテーマに沿って地区内81クラブ次期会長・幹事、クラブの次期委員長、一般会員らが集い、次年度に向けての勉強会が分科会形式で行われました。資料のプログラムに従い本会議及び第1～9分科会までの概要について報告いたします。

まず、午前の部本会議では梅村憲一副実行委員長の司会進行のもと、江崎ガバナーエレクトの点鐘、深田利幸実行委員長より開会のお言葉、また、国歌斉唱、奉仕の理想の唱和の後には、ホストクラブ柴田会長より歓迎の言葉をいただき、その後、河村嘉男次期地区幹事より特別出席者の、鈴木敬一ホストクラブ幹事より本日の出席者の紹介がありました。

次に斎藤ガバナーより「皆さん方も江崎ガバナーとは運命共同体である。ロータリアンは共に学ぼうとする姿勢が望ましいのではないかと、共に学ぶ一年の第一歩としていただきたい。」との挨拶がありました。

その後、江崎ガバナーエレクトより「先日、サンディエゴで開催された国際協議会においてボイド会長・次期のウィルキンソン会長エレクト、タクシンさんとテーブルを共にした際、次年度の R I テーマは“分かちあいの心”だが、ロータリアンは何を分かち合うかと言うとそれは愛を分かち合うという心・親切心だとうけたまわってきました。また、次年度の地区方針は“違いをもたらそう”というテーマになりました。今や奉仕はロータリーの専権事項ではありません。地域には N P O やボランティア団体が活躍しニーズに応えています。だからこそロータリーの奉仕理念による高い倫理性・専門性あるいは職能性を基にした奉仕によってその違いをもたらし、感銘を与えましょう。」と次年度の目標についての説明がありました。

この後、ガバナーの引継ぎ、エンブレムの贈呈、ガバナーズ・クラブバナーの引継ぎ、ガバナー・地区幹事ホストクラブ会長・実行委員長への花束贈呈の後、江南 R C 伊藤鶴吉実行委員長より2007～08年度の地区大会ご案内及び登録のお願いの挨拶がありました。

又、次期地区協議会は江崎ガバナーエレクトより一宮 R C がホストクラブに決定した旨、一宮 R C 石井会長エレクトより来年 4 月 13 日に開催するとの決意表明がありました。

尚、午後の部本会議は15時45分から行われ、斎藤ガバナーの講評、江崎ガバナーエレクトの点鐘で地区協議会は閉会しました。



第1分科会

<会長・幹事・会計>

**テーマ：有効なクラブ運営、管理
先哲に学ぶ(地区内の連帯と達成感を)**

報告者 次期地区会計長 舟橋 弘



定刻13時より河村嘉男次期地区幹事の司会によって分科会を開始した。

最初にリーダー斎藤直美ガバナーが「定款、細則通りの運営を」と題したスピーチがあった。その内容は①定款細則の研究 ②理事会機能の充実一定款の確認、議事録の充実 ③委員会活動の活性化—各々委員会の役割、目的確認 ④会長方針、姿勢の明確化等であった。

第2番には、江崎柳節ガバナーエレクトが「C.L.Pの真の意義」と題したスピーチがあった。C.L.Pは効果的なクラブ運営を目指して、R Iから示されたものであるが強制されるものではない。クラブの活性化を図るならば検討し、部分的にも採用する余地はある。

そこで、クラブ内でC.L.Pにつき、十分な議論検討のうえ決定をされたい。但し、四大奉仕の機構は、C.L.Pと何ら関係なく、遵守、不可侵のものである。C.L.Pはクラブの棚卸の機能を持っているのでぜひとも検討してほしい。

第3番目には片山主水ガバナーノミニーから「危機管理委員会設立の経緯」と題してスピーチがあった。青少年交換事業に於いて、セクハラ行為で損害賠償請求を受ける事例が世界では発生している。この問題は、範囲が拡大し、ホストファミリーの犯歴調査まで要求されるに至った。そこで、R C活動の健全発達を願って、委員会を設立した。

第4番目は、藤井伸三地区幹事から「地区とクラブの関係」と題し、スピーチがあった。2760地区は81クラブ5221名で構成されており、公式訪問回数は、44回であった。なお、今年度はI.Mが再開されて、R Cの勉強と仲間作りのために大変有意義な年度であった。また、各々のクラブでは、それぞれの創意に富んだ暖かい歓迎を受けて感激した。

第5番目は、舟橋弘次期地区会計長から地区便覧の2007-2008年度地区資金予算書(案)につき説明があった。今年度予算の特徴は①新設委員会としてロータリー未来委員会、危機管理委員会、地区史編纂委員会、②地区H P充実のためI.T委員会への予算増加、③ライラ国際大会事業資金120万円の拠出である。また、本予算書(案)は手続要覧によると当分科会に於いて承認を賜る必要がある旨の発言があり、全員から拍手を受け承認された。

第6番目には安藤重良次期地区財務委員長から「地区財政」について説明があった。

今年度は地区資金会計のため会員一人当たり21,800円を負担していただきたい。またそのうち3,000円はガバナー月信の講読配信のためお願いする旨の説明があった。

第7番目には、河村嘉男次期地区幹事が「R.I会長賞について」の説明があった。

2007-08年度R.I会長賞では①会員増強②水保全③識字率向上④保健等がある。また、会員増強にはバッジの進呈もあるので是非挑戦されたいとのスピーチがあった。

第8番目には杉浦壽康次期担当ガバナー補佐から「拡大についての経緯」の説明があった。

拡大はR Cの根幹を形成するものであり、成長をしつづけることによって発展がある。現状維持は衰退を意味する。ここに拡大の本当の意味がある旨の説明があった。

第9番目は、松尾隆徳次期拡大委員長から「拡大への努力」と題し、説明があった。新クラブの会員数は20名以上が必要であるが、今後C.L.Pの機能するような人員構成が望ましいと思われる。また、C.L.Pの採用により、夜間例会の恒常化とか、例会日の変更等により、拡大の可能性があれば検討課題としても良いと考える。会員数が、100名を超えるようなクラブは拡大の検討が必要となろう。唯、拡大は既存のクラブの機能低下をもたらさないような形で行なわれるのが望ましいと思われる。そして、クラブ会長が新クラブ結成の機運を醸成し、スポンサークラブの確固たる熱意が生ずれば、拡大は可能である。

第10番目には浅野彰R J W地区委員から「I Tを楽しんで活用しよう」と題し、スピーチがあった。パソコンを操作し、それを画面に投影しながらその楽しさを十分に説明され、有効性、楽しみが解った。

最後に斎藤直美ガバナーから、ロータリーに関して、いろいろ議論はあるが、最終的には「こころ」の問題に帰着するので、何事にもロータリー運動とは何かを考えて行動してほしいという講評を頂いて、第1分科会は定刻通り終わった。

第2分科会

<副会長・会長エレクト・クラブ奉仕・R 情報・会員増強・広報・IT・R 家族>

テーマ：クラブにもっと魅力を。 新時代のクラブ運営管理

報告者 次期地区副幹事 落合 鏝一



開会の辞及び特別出席者の紹介の後、杉本仁至アシスタントリーダー及び岡本伊三雄リーダー両名の挨拶の後、各アシスタントリーダーによる指導に入りました。

◆井上 穂アシスタントリーダー

地区クラブ奉仕委員会の4つの強調事項として

1. 委員長の総括すべき委員会の確認、把握をする
1. クラブ運営の効率化をはかる
1. 魅力あふれる例会運営をつかさどること
1. 魅力あふれる会員育成をはかること

以上についてパワーポイントを使用して分かり易く説明がありました。

◆伴 禎夫アシスタントリーダー

C. L. Pについては地区委員会及び各クラブに於いてかなり温度差がある。地区見解を熟読して、各クラブで一度は検討して下さい。やり方によっては細則を変えなくとも実施出来ることもあります。

昨年度のロータリー情報委員長にお聞きになるか日本ロータリーよりダウンロードして資料を取り出して下さい。

◆菊岡深智子アシスタントリーダー

ここ数年にわたり会員減少が止まりません。それを止める特効薬はあなたです。

退会防止も同じです。会員数日本一を第2650地区より奪い返すためには各クラブ純増2名を目指しましょう。会員を推薦された方にはRI ウィルキンソン会長より記念のバッジが贈呈されます。

◆青木勇作アシスタントリーダー

広報委員会の役割として、一般の人々にロータリーについての情報を提供し、クラブ奉仕の奉仕プロジェクトと奉仕活動を推進する計画を立て、実施する。又、ロータリーを外部に広報し、推進し、ロータリーのプログラムに対する理解、評価および支援を助長すべきである。効果的な対外宣伝、好感がもてる広報活動、および建設的なイメージの高揚は好ましく、ロータリーの肝要不可欠な目標であるという認識をロータリアンの間に推進するべきである。

◆高井克憲アシスタントリーダー

家族とはいつも一緒に居たい場所、ロータリークラブも同じ。年齢に関わらず老若男女を家族としてクラブに迎え入れてください。インターアクト・ローターアクト・交換留学生を積極的行なってください。ロータリー活動の源泉になります。地区・クラブ事業に積極的に家族を参加させましょう。

◆坂本 晃アシスタントリーダー

I・Tとは人と人とのコミュニケーションの道具であります。ではどのように利用するか

1. 活動コストの節約（週報の作成など）
1. 情報の受発信（メール等）
1. ホームページを利用したの出席、趣味の会等の確認
1. ロータリー情報の収集・活動の記録

実際にi・netに接続をして各種の情報を参加者は体感しました。

◆岡部快圓アドバイザー

優秀な地区委員会スタッフは皆さん方からの相談を心待ちに致しております。C. L. Pはクラブ管理を簡素化して奉仕活動に人と時間とお金をつかいクラブ活動を活性化することができる。もう一度クラブを見直して会員が喜ぶクラブに作り直して下さい。

第3分科会

<職業奉仕>

テーマ：職業奉仕はロータリーのステータス

報告者 次期地区副幹事 船橋 茂行



まず初めに太田達夫アシスタントリーダーより開会の辞および特別出席者の紹介があり第3分科会がスタートしました。

次に佐藤正延アシスタントリーダーに挨拶をいただきました。

私共ロータリアンは例会及び其の他の会合に於て、利害関係のない職種の異なる専門職のメンバーがそれぞれの人生観、価値観を持ち合わせて触れ合う時、自らの人生の軌跡とは違った観点から、自らの人生観がより深く、価値観もより幅広くなる事により、自己が研鑽されると考えます。

変化の激しい現代社会に於ては、深く問われる職業人の倫理観をその培われたものを根底に置いて自己の専門職の中で発露する事こそが、顧客に愛される職業人となれるのです。言い替えればロータリアン個人個人がお互いに研鑽し合ったものを、自らの職業を通じて社会に奉仕の志を持って還元する事が、他に類を見ないロータリーだけの奉仕と言えるのではないのでしょうか。正に職業奉仕はロータリーだけが持つステータスであると考えます。本日は成田委員長を始めパストガバナー等から、素晴らしいご指導がいただけるものと大変楽しみにしています。

次に成田洋之リーダーから、職業奉仕の理念と次年度地区職業奉仕委員会の方針の説明がありました。

「職業奉仕の次年度のテーマは「職業奉仕はロータリーのステータス」でございます。江崎ガバナーエレクトから最高のテーマをいただきました。皆様も職業奉仕委員会に所属されました事に誇りと自覚の念を持っていただきたい。」と挨拶があり、スライドを使って職業奉仕とその変遷と題して説明がありました。続いて地区委員会の活動方針について説明。

①会員に職業奉仕の理念と概要の理解

②クラブ委員会の任務（責務、役割など）の理解

具体的には8月21日の職業奉仕委員長会議への出席、職業奉仕月間（10月）には全会員への理解の徹底推進、そのためには各クラブを訪問し卓話等を行いたい。

次に山田善国アシスタントリーダーから次年度クラブ委員会の活動（任務）について説明があり「ロータリーの最も重要な運動は職業奉仕であるという事を自覚すること。ロータリーの綱領の究極の目的は自らの事業と職業倫理を高める事にあることを自覚すること。職業奉仕の理念の実践こそが自らの事業の繁栄につながるということを自覚することにある」

「10月は職業奉仕月間であり、それに合わせて計画書の作成時に折込んで活躍してほしい。具体的には卓話、事例発表、規定集の作成、四つのテストの唱和、ロータリー道徳律の朗読等です。又、職業奉仕活動がRI会長賞の一つに入っておりますので10月中に職業奉仕活動を組織することが求められていますので視野に入れて計画していただければ幸いです」

—休憩—

「Q&A 職業奉仕、職業奉仕5つの疑問」のビデオ観賞

岩間俊夫アシスタントリーダーにより小冊子「道徳と資本」「職業奉仕の実践例」の概要について説明をうけました。

石川和昌アドバイザーの講評

アーサーシュルドン元RI会長の言葉を引用され「我々ロータリーは私的な利潤追求に身をやつしている人達であるが、私的といってもやってよい事と悪い事がある。あくまでも周囲の人達の幸せとも調和された範囲内で利潤追求をしなければならない。その基準は何によって決められるかと言うと、いわゆる「利己と利他」これの調和である。」

「最も奉仕する者、最もよく報いられる」というモットーは英文の言葉の解釈では色々問題があるようで、もうこれは必要ないのではないか。という論議が世界の中にあり、「超私の奉仕」これだけでよいのではないか、というのが世界の流れである。

その点四つのテストは解りやすい。これを普及していくのが手っとり早く解りやすいのではないかと私も思います。C.L.Pについては規定審議会において、義務化されてしまいました。ロータリーの中では大事な事である、という事を再認識され、クラブの中の裁量でできる範囲で細則の変更等で対処され、慎重におやりいただく事をお奨めします。

分科会の最後はパネラーに一言づつお話をいただき丹羽司一アシスタントリーダーの閉会の辞により分科会を終了しました。

第4分科会

＜社会奉仕・RCC・環境保全＞

テーマ：地域のニーズとロータリーのプログラム ロータリーの魂

報告者 次期地区副幹事 塚原 秀典



塚原秀典次期地区副幹事の開会の辞及び特別出席者の紹介の後、伊藤秀雄リーダー、清水幸一アシスタントリーダー両名の挨拶の後、各アシスタントリーダーにより指導が始まりました。

◆西脇良一アシスタントリーダー

社会奉仕活動の概略を目的別、項目別に具体例を表にしたものを配布させていただきましたので、活動の参考にして下さい。福祉面（12項目）環境面（7項目）安全面（4項目）文化、教育面（9項目）健康スポーツ（4項目）その他（5項目）

◆伊藤秀雄リーダー

前年度からの継続事業の「AED」の地区内普及の推進活動状況を説明します。

最近ではホテル、交通機関、その他の場所に於て「AED」の設置が進んできておりますが、これはまだまだ初期段階であります。本当に安心して生活出来るのは半径100mに1台の設置が望ましいと言われております。

地区内各クラブにおかれましては「AED」の設置普及により一層のご協力をお願いしたい。

◆縣 政行アシスタントリーダー

RCCについて説明します。

現在、2760地区では11のチームが活動しています（2007.2.1現在）

RCCの目的は地域社会の生活状況を改善し、生きる喜びを高揚することにあります。RCCは地域に密着した奉仕活動の典型的プログラムであり、共に行動することでクラブの存在感もアピール出来、奉仕活動の価値を十分に発揮することにもなります。

◆清水幸一アシスタントリーダー

RCCの事例の紹介をさせていただきます。常滑RCの提唱により設立された。常滑ハートケアサークルについて説明します。主たる目的は市内の小、中学校のいじめ不登校対策の支援であり、その対策の一つとして適応指導教室「スペースばるーん」を開設し、10年になります。教育委員会、市内小中学校の校長先生との懇談会を重ねパソコンを設置して子供達が自由にインターネットが出来るようになるなど施設の環境整備の支援も行なってきました。

今後も継続して支援していきます。

◆長瀬 諭アシスタントリーダー

環境保全委員会の役割と方針について説明します。

クラブの委員長は通常1年で交代するため、情報の共有はなかなか難しいが、我々の任務は各クラブの後方支援と情報提供を行なう事にあると思いますので広報を強化する事を本年度の重点方針といたします。又、環境保全の意識の啓蒙を図るため環境対策の進んだ企業あるいは施設の見学を行なう。

環境保全活動の具体例、各種の環境情報をネットで配信する環境事業のアンケート調査は継続事業とする。環境情報を保存、蓄積しファイル化する事などの事業を行なっていく。

◆貴田永克アシスタントリーダー

地区補助金の説明とお願い

皆様方からのR財団寄付金の一部はロータリー財団の人的支援プログラムの1つとして地区に還元されています。社会奉仕に関連のある事業に対し事業資金として援助を受けることにより、より効果的な事業をめざそうというものです。

毎年400万円程還元されますが、限られた資金でありますので分配の方法等につきましては地区補助金委員会におたずね下さい。

◆高橋治朗アドバイザー

社会奉仕についての事例紹介をします。

「社団法人、被害者サポートセンターあいち」又、犯罪被害者自助グループ「緒あしす」は犯罪及びそれに類する行為によって被害を受けたその遺族に対し、手を差し延べ支援する目的で設立されたものです。

資金が必要な事から、ロータリアン各位には、どんな形でもかまいませんので、個人、企業、ホームクラブを問わず寄付金の支援の協力をお願いしたい。又、卓話に呼んでいただければ説明にお伺いさせていただきます。

第5分科会

＜国際奉仕・青少年交換・世界社会奉仕＞

**テーマ：国際奉仕はロータリーの得意分野
世界の幸せと平和のために**

報告者 次期地区副幹事 五藤 隆夫



地区協議会第5分科会は国際奉仕委員会、青少年交換委員会、世界社会奉仕委員会で構成され、地区内81クラブの国際奉仕委員長に集っていただき、次年度の委員会活動に於いていかに事業計画を立てるかヒントになる様な機会を提供する場でもあります。

本年度は特に車の両輪と言われるロータリー財団と新設された危機管理委員会からも説明がありました。

◆鈴木吉男リーダー

国際奉仕については1923年関東大震災の際、海外ロータリーより多額の援助を受けたのを契機に国際理解と善意で平和を願う我国のロータリー国際奉仕の歴史と、個々の会員に対し事実をわきまえた建設的な心構えを持つよう国際交流の重要性について説明がなされました。

◆安藤隆利アシスタントリーダー

青少年交換は青少年交換学生派遣について並びに地区内81クラブの過去の実績を基により積極的な交換学生の実施を依頼され又、名古屋大須クラブの交換学生であるフィンランドのソニアさんの大変有意義に楽しく過ごしている現状、名古屋名駅クラブの交換学生でフランスにより帰国した藤井ミユキさんの貴重な体験談を聞く事が出来ました。

◆籠橋美久アシスタントリーダー

WCSは国際理解・親善・平和の育成を目的として援助を必要としている国の情報交換の機会を効果的に提供する委員会であり現状の説明又、現在タイの協力でラオスに小学校の校舎の建設の現状をスライドで説明をされ、各クラブがWCSに積極的に取り組んでいただきたいと依頼を受ける。

◆石川昌和アシスタントリーダー

ロータリー財団は資金の使途が従来と異なりかなり明確化され次年度のRIテーマ「分かちあいの心」の如く奉仕を通じて愛を分かちあう財団であり、単にボランティアではなく教育的、人道的、文化的向上を計る目的で使用する必要が有る場合には積極的にロータリー財団に相談して欲しいと依頼がありました。

◆黒田勝基アシスタントリーダー

危機管理は青少年交換・新世代育成プログラムの活動を通じ全ての新世代の安全と健康を守ることがロータリーの責務であることを深く認識し新世代を事故、災害並びに身体的、性的、精神的虐待やハラスメントから保護、予防する為の策定の経緯、地区及びクラブの方針、虐待及びハラスメントの認識、防止のための体制集の説明がなされた。

尚、クラブより詳細説明の依頼が有れば委員会より出張をする。

◆盛田和昭アドバイザー

最後は盛田パストガバナーより各々ロータリアンのロータリー活動が大変重要であり出来る限り年毎に異なる委員会で思い切り頑張してほしいと依頼がありました。

第6分科会

＜新世代・インターアクト・ローターアクト・ライラ＞

テーマ：新世代の育成こそロータリーの手で



報告者 次期地区副幹事 堀井 武

1. 開会の辞及び挨拶 アシスタントリーダー

次期担当ガバナー補佐 金子 利夫

次年度 RI テーマ「ロータリーは分かち合いの心」地区テーマ「違いをもたらそう」にのっとり、今までの各委員会の事業を見直し、次年度に向けての目標を皆さんで討論しあい、事業目標を設定するのがこの分科会の目的であります。今日一日実のりある日にしてください。

2. アドバイザー挨拶 アドバイザー

パストガバナー 松本 宏

1996～1997年度ルイス・ジアイ RI 会長は、今までの「青少年への奉仕」を「新世代のためのロータリー・プログラム」と改正して、ロータリアンの責務は30歳までの新世代を教育することにより将来への準備をさせるためである。新世代の基本的なニーズを支援するプログラムに着手することを奨励されました。新世代会議も其の時発足したもので、大きな成果を挙げることが出来たのです。

新世代の健全育成に向け、我々はその推進に積極的に参加すべきです。

3. 地区新世代委員会 リーダー

次期新世代委員長 加藤 康治

私たちロータリアンはインターアクト、ローターアクト、ライラを通じて次代を担う若者にあらゆる努力を注がねばなりません。1960年度の激動期にロータリーは未来を託すべく若者の育成に立ち上がったのです。若者の目線に立ち、青少年の実態を熟知し、新しい支援システムを構築する奉仕のあり方を今一度見つめ直す必要があります。ロータリアン諸氏の協力をお願いします。

4. 地区インターアクト委員会 アシスタントリーダー

次期地区インターアクト委員長 加藤 明宏

お互いに助け合い、アイディアを分かち合い、協力する喜びを知ることにより社会及び国際奉仕の理解と研修を積むことが出来、広範囲にわたり奉仕プロジェクトを開発、遂行しています。そして毎年少なくとも二つの奉仕プロジェクトを遂行しています。一つは学校または地区社会に奉仕するもの、もう一つは国際理解を増進するものであります。

5. 地区ローターアクト委員会 アシスタントリーダー

次期地区ローターアクト委員長 坪井 和義

ローターアクトの活動は一人だけの力では達成できない。仲間同士で理解を深め、思いやる気持ちを持って力を合わせ目的達成に向かい活動するのがローターアクトであります。

6. 地区ライラ委員会 アシスタントリーダー

次期地区ライラ副委員長 増井 洋生

若い人とロータリアンが共に時間を過ごし、指導力、奉仕の精神を伝え、友愛を深め、参加者が自分たちの地域社会に奉仕するための技術、知識、あるいは人間関係などを限られた時間内に学ぶものであります。

7. 危機管理について アシスタントリーダー

現危機管理委員会 神田 憲

青少年交換学生に対するホストファミリーによる虐待とハラスメントが明らかになり、ロータリー有罪事例もおきている現状に対し、新世代全般を充分にお互い注意していく必要がある。その為の保険を掛ける必要性もあり現在検討中であります。この委員会もこの問題に対し、今真剣に考えていく必要があると思います。

8. 質疑・意見交換

9. 講評

10. 閉会の辞

第7分科会

<ロータリー財団・年次寄付・地区補助金・財団奨学・
財団学友・研究グループ交換・ポリオプラス・恒久基金>

テーマ：この活動の真価を知ろう 地域と世界平和への挑戦

報告者 次期地区副幹事 松尾憲二郎



◆深谷ロータリー財団委員長

ロータリー財団は決して寄付金集めだけの委員会ではない。財団活動そのものがロータリークラブの対外的活動の源であると考えている。ロータリー財団は3つの小委員会（年次寄付、恒久基金、ポリオプラス）で資金を集め、5つの小委員会（補助金、財団奨学、世界平和フェロシップ、GSE、財団学友）でその資金を活用し地域社会や国際社会に奉仕貢献しています。その為にロータリー財団の充実が必要なことなのです。奉仕活動と資金調達は、車の両輪です。又、財団寄付の使途の明確化は必要で、監査制度を設置しその透明性をはかります。

◆吉川年次寄付委員長

斎藤年度も1人100ドルの目標は達成出来そうです。江崎年度はそれ以上の目標に向けてご協力を！！

地区内では年次寄付0ドルのクラブが4クラブ有ります。色々なクラブ事情は有ると思いますが、委員会としてご協力をお願いして行きます。

◆朱宮恒久基金委員長

恒久基金は基金の運用収益がR財団資金となる性格のものです。今年度も各クラブ会員の恒久基金への寄付でベネファクターになっていただく様お願いします。

◆高山補助金委員会

R財団の寄付額の50%が3年後に地区財団活動資金として地区に還元され、その20%が地区補助金として各クラブの地元地域及び国際レベルで行う人道的プロジェクトに補助されます。是非共各クラブは、この地区補助金を有効に利用し、クラブ活動の活性化に努めて下さい。

◆カルマノ財団奨学委員長

現在の問題点はR財団奨学生の応募者の減少です。今年度6名の応募です。11名以上の昨年とは大きな違いです。募集のハードルが高いのか、社会の状況が好転して必要と思う人が減ったのかわかりませんが、まず大学へのPRに努めます。

◆矢形 GSE 委員長

現在5名の研究チームがアメリカ・アーカンソー州のRID6170に派遣中です。先日、斎藤ガバナー、深谷委員長他で親善団を作り、RID6170の地区大会に出席をして来ました。すごい歓迎を受けました。

江崎年度は2007年11月、フランス RID1780 ローヌ・アルプ・モンブランより研究チームの受入れを行います。その折には4分区分でお世話になりますがよろしくお願いします。又2008年4月にはローヌ・アルプ・モンブランにGSEチームを派遣いたします。現在その募集を行っています。応募資料を同封しておりますので、各クラブでPRをお願いします。

◆大嶽財団学友委員長

学友会は財団奨学生、GSEチーム等のOBを学友とする組織で新たな派遣学生、GSEチームに対して、学友自身の経験からのアドバイスとサポートを提供することにあります。

委員会は学友の正確で最新の情報を把握し作成し管理をします。又財団学友に対し各クラブの要請のもとR財団月間に卓話者としての派遣、プログラム参加が出来るよう支援しております。

◆近藤ポリオプラス委員長

江崎ガバナーエレクトの江崎年度はポリオプラスをきっちりとやりますとのお言葉のもと、ポリオ撲滅運動を今一度お願いします。又一度現地に出向き、人道的な活動を試み、実行したく計画をたてる予定です。

◆深谷世界平和フェロシップ委員長（兼務）

新設の地区委員会で国、地域、宗教にかかわらず国際紛争を解決すべく取組めるのは世界的な組織を持つ国際ロータリークラブしかないとの基本的な考えで取組まれている活動で、これからのロータリー財団の活動方向を示すものと思う。

国際紛争等を解決するにない手を育成すべく世界中で5大学を決め、実務経験を持った社会人を大学で専門知識を高め、国際紛争等の解決をするプロフェッショナルを育成する。当地区で1名有力の候補者が有り、交渉中とのこと。

◆質疑応答

1) R財団の寄付に対する税制の優遇措置について質問。

米山は税制上で寄付金がすべて認められ、R財団は20万以上はどうか。（岡崎東 RC）

深谷委員長より説明。

2) 同様の件、米山と同様になる様全クラブで行動する必要があると思うがどうか（あま RC）

財団のゾーン研究会でも検討課題となっているがまだ検討途中であると深谷委員長が回答。

第8分科会

<米山奨学>

テーマ：米山学友は世界を 日本を支える力

報告者 次期地区副幹事 濱口 栄男



◆開会の辞 清水 勲アシスタントリーダー

「本日は地区協議会第8分科会米山奨学委員会に御出席いただき、ご苦勞様でございます。それではただ今より始めさせていただきます。」

◆米山奨学事業について 大西 弘高リーダー

米山奨学事業は、ロータリーの奉仕の理想の精神に基づいた国際理解と国際親善を促進するため、学業、異文化の理解、語学能力等を備えた、優秀な学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献できる奨学生、学友の支援と育成を図ること。

又我が国の留学生事業の目標とする知的国際貢献への協力と支援に貢献することを目的としています。

事業展開を図るためにロータリアン各位の寄付金を財源としていることから、地区役員をはじめ各クラブ会員は運命共同体となって米山奨学会をより進化、発展するよう一層の努力をお願いします。

◆奨学金制度について 中島 實アシスタントリーダー

- ・奨学生の採用は日本全体で年間800名です。2760地区では34名です。
- ・事業費は年間15億円です。会員1人当りの負担は15000円となります。これまでに支援した奨学生は約13,300名強で106の国と地域に及びます。
- ・国内には種々の奨学制度あるいは留学制度などがありますが、米山記念奨学会は我が国最大の民間奨学事業であり、誇りを持っていただきたい。
- ・奨学生の募集対象は学部課程、修士課程、博士課程、地区奨励の学生が対象となります。募集方法は指定校・大学の推薦制度に基づいて行われます。合格は最終2月に決まります。

世話クラブ、カウンセラー制度について

奨学生には経済援助だけでなく研修を受けた世話クラブ、カウンセラー制度が確立されています。奨学生を精神面でも支えて、異文化社会の体験、奉仕の心に触れ、コミュニケーションを保ち、人間形成の手助けに努めています。

又世話クラブ以外でも奨学生を卓話に呼ぶことで交流を深め身近に感じる事が出来ます。

◆寄付金と奨学金・事業費の推移 小野 文憲アシスタントリーダー

- ・ロータリー米山奨学金の財政はロータリアンの寄付で支えられています。財政の健全化を図るため2005年度から採用奨学生の人員削減、奨学金額の減額を行ない特別積立金の取り崩しは行わず寄付金収入に見合った支援規模としました。
- ・2005年度の寄付額はガバナーはじめ地区役員、クラブ米山委員の努力により14億6300万円（前年比1.4%増）となりました。
- ・寄付金の増額の検討をお願いしたい。普通寄付金はクラブで1人当りの金額の増額（1,000円／月増）を依頼する。特別寄付金は米山功労者（10万円）を3～5人募る。しかし寄付金は決して強要するものではありませんので、地区内会員1人1人のご賛同をお願いする次第です。

◆米山学友会の現状 竹内 一郎アシスタントリーダー

学友会は奨学期間を終了した米山学友と現役の奨学生によって組織されています。日本に25団体、海外に2団体組織されています。これは学友による自主的な運営で、ロータリアンや米山奨学会はこれを支援します。米山奨学生の集計は13,300名を超えその内、日本に在留する学友は3,400名となっています。外交官をはじめ、教育、行政、医療、福祉など各界でリーダーシップを発揮して活躍しています。

2760地区は150～160名の学友が在籍していますが、その内30～50名程度の動向しか把握出来ておりません。寄付金の成果である学友の活躍や社会貢献の状況について、ロータリアンの関心度が高まっている今日であります。学友に関する情報の収集と提供を一層充実することが望まれます。そのためには学友のフォローアップ体制の充実が急務であります。

尚、米山奨学生学友会（愛知）は1997～98年度の犬飼年度に設立され、2007年1月現在で169名の登録会員があり、会長はクネヒト・ペトロ（スイス）元南山大学教授、総会・懇親会が毎年7月に、忘年会が12月に、キャッスルプラザで開催されています。

奨学生・学友との合同研修会・懇親会についても活発に行なわれています。

最後に加納泉パストガバナーの講評をいただき、濱口栄男次期地区副幹事の閉会の辞で分科会は終了しました。

第9分科会

<一般会員・パスト会長・指導者を志す会員・新入会員>

テーマ：ロータリーは人生の規範を学ぶコンペの場 先哲に学ぶ



報告者 次期地区副幹事 長谷川憲治

◆当代ロータリーにおけるリーダー像 豊島徳三次期地区研修リーダー

ユーモアに満ち、気さくな語り口により話を進められた。対象がパスト会長から新入会員まで約400名の会員であり、焦点が絞りにくいのではと若干危惧していましたが、さすが聞く人の心を直ぐに掴み分かりやすいスピーチであった。冒頭に、パストガバナーの「ポールハリス」の名前を聞いたことのない方は手を上げてくださいとの呼びかけに10名以上の会員が手を上げたのには驚かされました。

これを受けてロータリアンとして

- ① ロータリーに関する文献をせめて2冊～3冊は先ず読んで欲しいと言う事
- ② 多くのロータリアンと友好を深めて欲しい
- ③ 例会出席をきちんとすること
- ④ 職業を全うすることを基本に
- ⑤ 温故知新という言葉の意味を味わって欲しい

といったことを大切に、心で、身体で奉仕の実践をすることが、大切であると結ばれました。

◆いいロータリアンを目指して 神戸政治パストガバナー

私共がロータリークラブに入会した動機は先輩、知人、友人の勧めや紹介など色々有りますが、それを決意したのは自分自身であります。

暫らくして自分の考えていた様なロータリーと実際のロータリーのギャップに失望して最悪の退会と言う結果になります。

では何故失望の事態になるのでしょうか、その原因を詳しく分析すると色々なことが分かってまいります。

例1 週1回の例会に段々出にくくなって来る。例会欠席が増える。

更にメイクアップもしなくなる。

クラブの活きた情報が届かなくなる。

例2 クラブの奉仕活動にも殆んど参加しない。

例3 地区の情報に無関心。

その他

私共は充実したロータリークラブを目指して良いロータリアンでありたいものです。

- 1) 会員の増強、クラブの拡大を図る
- 2) クラブレベル、分区レベル、地区レベルの会合、研修会に積極的に参加する
- 3) クラブ運営費の見直し検討を常に行うこと

◆シカゴの規定審議会に出席して 内藤明人パストガバナー

規定審議会の意義の解説と本年は約300の案件が提案されたことの報告があった。其の案件の膨大な事からもこの審議会の大変なことが良く分かりました。

本年の審議会における特筆すべきことは、職業奉仕が定款にいれられたこと、また案件を審議し決定する場合は必ず過半数の賛成がなければ採択されないという完全多数決主義が守られていることが、特に印象深く聞くことが出来ました。

◆万博以降の地区ロータリー 大島宏彦パストガバナー

愛知万博が成功裡に終わり会館建設等に携わった者として未だ其の余韻が残っていますという導入の言葉と、会館建設費を地区のロータリアンをはじめ多くのロータリアンのご協力により賄うことが出来たことに感謝しているとのこと、それでも万一資金が足りなくなったりした場合は内藤パストガバナーと二人で穴埋めする覚悟でいたという裏話をきくと担当責任者としてのご苦労が良く分かりました。

また当地区が全国で二番目に会員が多い地区でもあり一番になることもさほど困難ではないということ、ロータリーは世界を繋ぐ組織であり素晴らしいものであるが、ロータリー活動においては無理をしてはいけない、肩の力を少し抜いて奉仕するぐらいで丁度良いのではないかという言葉結びにスピーチを終えられました。

◆「ロータリーの友」より先哲に学ぶ 松前憲典アシスタントリーダー

ロータリーの友の意義と利用方法については以下のような説明があった

1. 「ロータリーの友」は日本におけるロータリアンの為の機関紙である。
2. 「ロータリーの友」はロータリーについての情報誌である。
3. 「ロータリーの友」はロータリアンの公開討論の場であります。
4. 「ロータリーの友」を毎月読んでロータリーの活動に活用して下さい。

以上のごときロータリーの友の効用を説明された後、2005年取材による「元気な明治人」として5名の90歳以上のロータリアンを写真により紹介があった。

更に2690地区で90歳を超えてガバナーとなられた、原久義ガバナーの紹介等興味深い話題が「ロータリーの友」に掲載されていることを結びに終了した。

R I 第2760地区、R I 第2830地区(青森)

ローターアクト交流事業について

地区新世代委員会

委員長 加藤 康治



晴天の空を鯉のぼりが泳ぐ頃、国際ロータリー第2830地区との新世代交流の機会を頂き、斎藤ガバナー・新世代委員長・新世代ローターアクト担当副委員長・地区ローターアクト委員長・ローターアクト地区代表・ローターアクト地区幹事と津軽の地に降り立つ。

空港には、鐘ヶ江ガバナーはじめ、当地区のアクト代表對馬君たちの出迎えを受ける。鐘ヶ江ガバナーより「雪深い津軽の誇りは人の郷土愛と古来からの郷土伝統の祭りです」と挨拶を受ける。

弘前公園の桜は今とばかりに、咲き誇る。厳冬があるから、ここぞとばかりに咲き誇る桜は余りにも美しい。形容しがたい津軽の春です。連

休には200万にも及ぶ人が各地から集まる。美しさにもう一つ、津軽の人の親切心が呼び寄せる。

弘前市では宿泊が難しい、1時間ほど五所川原市の途中、板柳市の「板柳ふるさとセンター」で板柳ロータリークラブ交流事業例会に出席する。

例会に先立ち、同所「伝承室」で交流事業の一環として、ローターアクト交流について第2760地区と第2830地区との会議に出席する。ローターアクトは毎年2月に全国ローターアクト研修会が行われる折に一層の交流を促すべく、地区間の情報交換を行うことを約す。

また、5月12・13日の2760地区ローターアクト年次大会に2830地区アクターが出席することでローターアクトの国内友好交流が進むと思う。

美しさは岩木山や奥入瀬ばかりではない、人のやさしさ、温かい心が若い人たちに伝わっていく、都会では味わえないロータリーの心。



ローターアクト第17回地区年次大会お礼

地区ローターアクト代表 内田 将美

年次大会実行委員長 筧 智美

まず初めに第17回地区年次大会にお越し頂きまして、誠にありがとうございました。こうして無事終えることができましたのも、斎藤直美ガバナーをはじめとするすべてのロータリアンの皆様のおかげだと、心から感謝申し上げます。

今回の地区年次大会のテーマは、地区テーマ「わ」を踏まえまして「えん」と致しました。そして、サブタイトルを「奇跡の出会いに感謝して」と致しました。

ローターアクトは「奉仕を通じた親睦」という考えの下、様々な活動を通し貴重な体験をさせて頂いております。そしてその活動を通し、年齢も職業も異なる人々と沢山の出会いを得ています。そしてその様々な出会いの中で新たな発見や情報交換、成長をする糧を得ております。その場を与えてくださっているロータリアンの方々に感謝しようという気持ちを込めてサブタイトルをつけました。

本大会では、せっかく多くの方々に岡崎にお越しいただいたので、岡崎の魅力を残すことなくすべてお伝えしようとし、オープニングでは軽快なジャズの曲に乗せ岡崎の名所をご紹介します。そして、友愛の広場では岡崎の銘菓を味わって頂き、記念講演ではジャズの街として盛り上がっている岡崎を感じて頂こうと、ジャズのビッグバンドの演奏をお聞きいただきました。

本大会の一番の見どころとしては、各クラブの一年間の活動報告をパワーポイントにて行いました。また、午後からは、一年間優秀な活動をした人物やクラブを表彰しました。そして、ローターアクトでは30歳という年齢退会があります。その年齢退会者を盛大に送り出す卒業式を行いました。この卒業式では、やはり今まで頑張ってきたアクト活動に終止符を打たなくてはならないという寂しさから、涙を流す卒業生、そしてその卒業生との別れを惜しむアクターと感動の卒業式となりました。

今回地区年次大会のホストを通じ、大勢の方々のご協力、そして多くの励ましの言葉を頂きました。心から感謝申し上げます。

今後もアクト活動にご理解とご協力をして頂き、来期も盛大に年次大会が開催されますことを期待致します。



地区活動報告



青森の方と



友愛の広場

ガバナーからの お知らせ・報告

新城ロータリークラブ創立40周年を迎えて

記念式典

平成19年4月22日(日)

新城観光ホテル(東館)

新城ロータリークラブ
会長 古瀬 弘文

【メイン事業】

安全安心のまちづくりの観点から新城市消防防災センターの中に「一筆啓上火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」の名文発祥の地として石碑を建立

【ロータリー財団への特別寄付】

新城市民文化講座 世界的な音楽家 喜多郎の講演への協賛、青少年健全育成援助としてガールスカウト、小中学生サッカー大会の開催、韓国大邱嶺南ロータリークラブ25周年記念式典出席及び第8次姉妹協約締結、21年に渡る中学生海外派遣への援助協力、物故会員の追悼例会など

新城ロータリークラブが地域と共に発展することを願います。

*参考資料として

〔天正3年5月(西暦1575)長篠の戦いで有名な新城設楽原合戦の陣中で、戦国武将本多作左衛門重次は妻に宛てて短い手紙を書いた。この手紙は近年、日本一短い手紙としても有名である。「一筆啓上、火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ」我が家の安全と繁栄を願い、幼い男児、後に越前丸岡城主になった本多成重のことである。〕



豊橋北ロータリークラブ創立50周年を迎えて

記念式典

2007年5月19日(土)

ホテルアソシア豊橋

豊橋北ロータリークラブ
会長 高倉 宣夫

豊橋北ロータリークラブ創立50周年記念式典へ大変お忙しいなか、斎藤直美ガバナーをはじめ多数のご来賓のご臨席を賜り、盛大に挙行できましたこと誠にありがたく御礼申し上げます。豊橋北ロータリークラブが本年5月に創立50周年の節目を迎えることが出来たのは、歴代の会長・幹事及び理事・役員・委員長の皆様、また会員の皆様の協力があったることと存じます。50周年記念事業は実行委員会の委員の皆様の熱意ある努力により実行できましたことに重ねて御礼を申し上げます。



名古屋昭和ロータリークラブ創立15周年を迎えて

記念式典ならびに祝賀会

2007年5月21日(月)

名古屋東急ホテル 3F (ルネッサンスの間)

名古屋昭和ロータリークラブ

会長 名倉 嗣治

名古屋昭和ロータリークラブは、平成4年5月に名古屋東ロータリークラブをスポンサーとして、故 原田清初代会長のもと65名のチャーターメンバーで誕生致しました。

式典の始めには、会員在籍中になくられました4名様の追悼を執り行い、無事15周年を迎えられたお礼を報告いたしました。

ご来賓には、官庁関係者・設立時(1991~1992年度)関係者・名古屋東ロータリークラブの方々をご招待させていただき、3時間に及び式典・祝宴を終えましたことを心より感謝いたします。

終了後別室にてメンバー(ご夫人同伴)全員で打ち上げの乾杯をし、さらに20周年・30周年式典に向かって成長をつづけることをメンバー全員で誓いあいました。

《記念事業》として、愛知県昭和警察署様に警察署防犯カメラ一式、名古屋市昭和消防署様に消火ポンプ展示用ケース一式をご寄付させていただきました。



R.I.第2760地区 第3回 ガバナー補佐会議



森島 昭二



江崎 柳節



山内 登



片山 主水



千田 毅



加藤 鈴幸



尾原 脩



羽田 育哉

日 時：2007年5月10日(木) 16:00~ 場 所：ホテルトヨタキャッスル

式 次 第

●開会の辞

●ガバナー挨拶

●議題

- 2007年3月末 各クラブ財団寄付額 累計
- ガバナー補佐の選出方法の件
- 2006~2007年度 地区役員・会長幹事懇談会 次第
- その他

●閉会の辞

司会：地区副幹事 天野 勝美

地区幹事 藤井 伸三

ガバナー 斎藤 直美

地区幹事 藤井 伸三



変更のお知らせ

先々月(4月号)の17頁「2006~2007年度R.I.第2830地区(青森)クラブ出席・会員増強セミナーに出席して」内において文章に誤りがありました。訂正・お詫びさせていただきます。

- (誤) 急勢であります → (正) 急務であります
- (誤) 卒業が悪いからです → (正) 卒業が無いからです

会員数及び出席報告（平成19年4月分）

	クラブ名	会員数	会員数	会員数	当月女性	入会		退会		例 会 数	4 月 出席率
		2006年 7月1日	7月1日 女性	2007年 4月末日		4 月	累計	4 月	累計		
南尾張分区分	半田	60	3	61	3	0	4	0	3	4	100%
	常滑	54	0	53	0	0	0	0	1	3	97.09%
	東海	57	2	60	2	0	3	0	0	4	96.25%
	東知多	24	1	24	1	1	1	0	1	4	81.18%
	半田南	49	1	48	1	0	3	0	4	4	100%
	知多	23	0	24	0	0	1	0	0	4	96.87%
	大府	25	1	25	1	0	2	0	2	3	88%
	7 RC	292	8	295	8	1	14	0	11		94.20%
西尾張分区分	一宮	78	0	80	0	0	4	0	2	4	98.31%
	津島	75	3	77	3	0	2	0	0	4	89.34%
	尾西	31	0	31	1	0	1	0	1	3	94.62%
	一宮北	55	0	56	0	0	2	0	1	3	84.77%
	稲沢	60	0	60	0	0	2	0	2	4	83.16%
	あま	88	0	91	0	0	4	1	1	4	97.89%
	名古屋清須	39	1	39	1	0	1	0	1	4	90.98%
	尾張中央	46	0	46	0	0	4	0	4	4	90.71%
東尾張分区分	一宮中央	53	4	53	5	0	2	0	2	4	92.20%
	9 RC	525	8	533	10	0	22	1	14		91.33%
	瀬戸	73	3	79	3	2	8	0	2	4	100%
	犬山	82	0	82	0	0	3	1	3	4	100%
	江南	52	1	54	1	0	3	0	1	4	96.98%
	小牧	51	3	50	3	0	2	0	3	4	93.02%
	春日井	62	2	62	2	0	4	0	4	4	98.17%
	尾張旭	30	0	30	0	0	0	0	0	4	100%
西名古屋分区分	名古屋空港	56	1	56	3	1	2	0	2	4	97.92%
	瀬戸北	70	4	72	5	2	2	0	0	4	100%
	岩倉	19	0	19	1	0	1	0	1	4	90.79%
	豊山・城北	20	1	21	2	0	3	0	2	4	94.12%
	愛知長久手	22	2	27	3	1	5	0	0	4	80.90%
	11RC	537	17	552	23	6	33	1	18		95.63%
	名古屋	178	0	191	0	0	19	1	6	4	93.29%
	名古屋西	102	0	100	0	0	5	1	7	3	90%
西名古屋分区分	名古屋南	114	0	121	0	0	10	0	3	4	93.97%
	名古屋みなと	72	0	79	0	0	9	0	2	4	95.84%
	名古屋東南	72	6	73	6	1	3	0	2	4	84.68%
	名古屋中	137	0	142	0	2	8	0	3	4	100%
	名古屋瑞穂	72	0	74	0	0	3	0	1	4	96.59%
	名古屋大須	68	3	69	3	0	1	0	0	4	90.85%
	名古屋栄	71	0	72	0	3	5	1	4	4	89.34%
	名古屋名南	78	12	76	12	0	3	0	5	4	97.39%
西名古屋分区分	名古屋名駅	93	4	99	3	2	11	0	5	4	94.94%
	名古屋西南	48	6	49	6	0	4	0	3	3	95.59%
	12RC	1,105	31	1,145	30	8	81	3	41		93.54%

クラブ	平均
平均出席率	81
	94.23%

	クラブ名	会員数	会員数	会員数	当月女性	入会		退会		例 会 数	4 月 出席率
		2006年 7月1日	7月1日 女性	2007年 4月末日		4 月	累計	4 月	累計		
東名古屋分区分	名古屋北	94	0	97	0	0	9	1	6	4	99.68%
	名古屋東	91	0	88	0	0	1	0	4	4	91.12%
	名古屋守山	65	7	64	7	1	4	0	5	4	92.13%
	名古屋和合	96	0	98	0	0	4	0	2	4	91.28%
	名古屋名東	57	6	60	7	0	5	0	2	4	100%
	名古屋名北	46	7	51	8	0	5	0	0	4	95.83%
	名古屋千種	58	6	59	6	0	4	0	3	4	90.94%
	名古屋昭和	59	0	60	0	0	2	0	1	4	99.55%
東三河分区分	名古屋錦	34	6	33	6	0	1	2	2	4	91.50%
	名古屋東山	57	2	54	2	1	2	1	5	4	63%
	名古屋葵	24	0	24	0	0	0	0	0	4	83.70%
	11RC	681	34	688	36	2	37	4	30		90.79%
	豊橋	118	4	116	4	0	2	0	4	4	88.67%
	蒲郡	58	0	57	0	0	3	0	4	4	90.85%
	豊橋北	91	2	94	2	1	9	1	6	4	97.61%
	豊川	68	0	69	0	0	3	0	2	4	94.09%
西三河分区分	田原	56	1	55	1	0	0	0	1	4	90.43%
	豊橋南	64	0	64	0	0	1	0	1	4	97%
	新城	55	0	53	0	0	0	0	2	4	94.34%
	渥美	35	0	37	0	0	6	0	4	4	89.70%
	奥三河	20	3	20	3	0	0	0	0	3	93%
	豊川宝飯	54	0	57	2	1	4	0	1	4	95%
	豊橋ゴールデン	63	0	62	0	0	3	0	4	3	94.05%
	田原パシフィック	68	0	67	0	0	2	1	3	4	90.57%
西三河分区分	豊橋東	48	0	46	0	0	0	0	2	4	100%
	13RC	798	10	797	12	2	33	2	34		93.49%
	岡崎	95	1	94	1	0	6	1	7	3	99.55%
	豊田	80	0	79	0	1	4	2	5	4	100%
	岡崎南	95	2	95	2	0	5	2	5	4	95.52%
	豊田西	101	0	102	0	1	3	0	2	4	99.63%
	岡崎東	65	0	63	0	0	3	1	5	4	96.23%
	豊田東	81	0	81	0	0	2	0	2	4	96.15%
西三河分区分	岡崎城南	74	0	74	0	0	1	0	1	4	94.93%
	豊田三好	21	2	22	2	0	2	0	1	4	93.75%
	豊田中	47	5	49	5	0	4	0	2	3	100%
	9 RC	659	10	659	10	2	30	6	30		97.31%
	刈谷	89	2	96	4	0	10	0	3	3	100%
	安城	62	1	64	1	0	3	0	1	4	95.55%
	西尾	74	1	73	1	0	1	1	2	4	96.70%
	碧南	75	0	79	0	0	8	0	4	4	97.72%
西三河分区分	一色	30	0	30	0	1	2	0	2	4	97.50%
	高浜	41	2	40	2	0	1	1	2	4	100%
	知立	66	0	67	0	0	2	0	1	4	100%
	西尾 KIRARA	62	0	58	0	0	1	0	5	4	100%
	三河安城	53	5	57	6	0	4	0	0	4	90.50%
	9 RC	552	11	564	14	1	32	2	20		97.55%

地区内クラブ数 81RC	2006年7月1日会員数	5,149 名	内女性 129	増加会員数（累計）	282 名
	当月会員数	5,233 名	内女性 143	減少会員数（累計）	198 名
	当月平均出席率	94.23%		差引純増会員数（累計）	84 名



**ROTARY
INTERNATIONAL
DISTRICT 2760**

今月の表紙

小原和紙工芸
日展会員 山内一生 作



「竹
林」

朝もやの中、静かに立つ二本の竹に心をうばわれる。

竹のみを写實的に表現するという点では難しいものである。小作品であるが幹には金箔を用い、若々しい竹葉がリズムカルにしかも巧に表現され、生き生きとした生命感あふれる作品となっている。